

○令和5年度 教育事業

「大雪地域リーダー養成兼ボランティアセミナー」(R5.5.27(土)～28(日))

令和5年度国立大雪青少年交流の家教育事業

大雪地域リーダー養成 兼 ボランティアセミナー



楽しく体験！深める学び！
そのために必要なことは何だろう？

交流の家では今回体験したこと・学んだことをすぐ生かす機会があります。
ぜひ、子供たち・地域・自分自身のために一緒に活動しましょう！

無料
送迎バス
あります

期 日：5/27(土)～28(日)1泊2日
対 象：高校生や大学生、社会人でボランティア活動や地元の子どものために何かや
りたいと考えている方、又は既に活動している方など
参加費：2,800円 [詳しい案内は裏面へ](#)

◆目的

地域で活動しているリーダー等を集め、体験活動の重要性等を学ぶとともに、地域や施設で活動したいという意欲を高める機会とする。

◆参加実績(定員30名)

参加19名

- ・高校生1名
- ・大学生15名
- ・その他の学生1名
- ・社会人2名

ボランティア6名

独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立大雪青少年交流の家
National Taisetsu Youth Friendship Center

参加を希望する方は、
こちらから→



◆プログラム

①【活動①】今の子どもたちを知ろう

講師：北海道教育大学旭川校准教授 蔦森 英史 氏

事業の参加対象として多い小学生の特性などを知るとともに、事業に参加するにあたりどんなことが障害となるのか、そもそも障害とは何かを考えることで、人とのかかわりについて学んだり、意見の交流を行ったりした。

②【活動②】交流ゲームを楽しもう

講師：北海道教育大学岩見沢校准教授 濱谷 弘志 氏

自然の中での活動や人との交流の楽しさを感じてもらうため、敷地内の芝生の上で、課題解決型のレクリエーションを行った。また、安全管理の観点から、参加者は活動中のヒヤリハットを挙げ、どういったところに危険が潜んでいるか意見を出し合い、安全管理の基本について理解を深めた。

③【活動③】交流の家紹介タイムとみんなでキャンプファイヤー

講師：大雪青少年交流の家職員、法人ボランティア

青少年教育施設や国立大雪青少年交流の家で実施している事業について学ぶとともに、ボランティアから教育事業でのボランティア活動の実際について説明を受けた。

後半は法人ボランティアとともにキャンプファイヤーを行い、その進め方を体験し、参加者同士の仲を深めた。



④【活動④】 焚き火で食事を作ろう

講師：国立大雪青少年交流の家職員

参加者は刃物の使い方や火のおこし方の技術やその安全管理の仕方について理解してもらうために、自分たちで火をおこし、パンを焼く活動を行った。参加者は薪割り用のナタの種類や薪割りを行うときの姿勢などの基本について話を聞き、グループに分かれ実際に薪割りや火おこしを行った。また、おこした火を使い、自分たちでこねたパンを焼いて、昼食とした。



⑤【活動⑤】 みんなでトークタイム！

講師：国立大雪青少年交流の家職員、法人ボランティア

青少年教育施設で行われるボランティア活動の意義を学び、ボランティア活動について理解してもらうために参加者と法人ボランティアがトークする時間を設けた。始めに「ボランティア」に対するイメージを参加者同士で意見交換してもらうとともに、一般的なボランティア活動の定義について学び、理解を深めた。次に、法人ボランティアからボランティア活動の楽しさや法人ボランティア自身が地域で活動している内容の紹介したり、参加者がどんな企画に関わりたいか話したりするなど、グループで交流しあった。



⑥【説明①②】 法人ボランティアとは？

説明：国立大雪青少年交流の家職員

法人ボランティア制度について、カリキュラム内容や旅費の支給があること、他の国立施設でも活動が可能な事等をボランティアハンドブックをもとに説明した。

◆事業運営・企画のポイント

○参加者が主体的に活動できる仕組みとして、グループワークや意見交換、体験を多く取り入れたプログラム構成とした。

○先輩となる法人ボランティア6名がプログラムを担当し、企画から事前の打ち合わせ、当日の運営にあたっていただいた。それにより参加者と法人ボランティアの距離が縮まり、参加者のロールモデルになった。また、生活面での支援や休憩時間の対応をするなどして、参加者が安心して活動に取り組める運営体制とした。

◆参加者の声

□ボランティアの方、優しく、明るく、ステキな人しかいなくて、とても良い環境で学ぶことができました。講義、演習も興味深いものばかりで、面白かったです。施設も、とてもきれいで過ごしやすかったです。

□様々なことを学ぶことができ、次回以降の活動にも参加してみたいと思いました。

□今回初めて参加したのですが、とても楽しくよりよい学びが学べたので次回機会があれば参加してもよいなと思いました。学んだ経験を活かして今後旭川のボランティアで活用していきたい。

◆事業の成果

アンケートの結果から、参加者が今後のボランティア活動や地域活動への参加意欲を高めたことが分かった。参加者自身が様々な体験を行い、そこから学びを得るという流れで事業に参加してもらうことで、体験活動の重要性等を理解してもらい、普及啓発しようという気持ちも高めることができた。